

〈資料紹介〉

今金町「読書と作文のまちづくり」活動報告(Ⅱ)

伊藤公紀^{*1} 小川ひとみ^{*2} 白岩政浩^{*3}
船木 恵^{*4} 中島光弘^{*5} 鹿内信善^{*6}

I. はじめに

I-1 本稿の位置づけ

本稿は、日本学術振興会科学研究費(挑戦的萌芽研究)「読書と作文のまちづくりに関する実践的研究」(研究代表者:鹿内信善)活動報告の第2報である。本研究そのものの位置づけおよび「読書と作文のまちづくり」というコンセプトについては前報(伊藤他2015)で詳説している。このためこれらの解説は割愛する。

I-2 「知のトラスト」の機能

今金町は「読書と作文のまちづくりワーキングチーム(以下『ワーキングチーム』)」を発足させた。このワーキングチームには、小中学校教員・PTA会員から、読み聞かせサークル会員・スポーツ指導者まで今金町の教育と文化を動かしている主だったメンバーが参加している。ワーキングチームを「知のトラスト」としての活動主体にしていくことも、本研究の目的のひとつである。

グラウンドワークシステムを取り入れた「まちづくり」活動は、さまざまところで行われている(例えば渡辺2005)。このシステムでは「トラスト」とよばれる専門組織が重要な役割を果たす。トラストは市民・行政・企業のパートナーシップをつくり出し、環境改善によるまちづくりを行っている。鹿内は、グラウンドワークシステムを「読書と作文のまちづくり」のモデルにして活動をマネージしている。これまでの2年間でワーキ

*1 札幌大学地域共創学群経営学系教授

*2 今金町読書と作文のまちワーキングチーム

*3 今金町教育委員会社会教育主事

*4 今金町教育委員会司書

*5 今金町副町長

*6 福岡女学院大学人間関係学部教授

ングチームは「トラスト」としての機能を十分に果たすようになってきた。「知のトラスト」は学校・行政・地域・大学のパートナーシップをつくり出す役割を担う。同時に、様々なスキルを駆使して「読書と作文のまちづくり」を展開している。

しかし2015年度は活動体制に大きな変化があった。これまで教育行政の立場から「読書と作文のまちづくり」活動を推進してきた第5筆者の中島が教育長を退き副町長に就任した。「読書と作文のまちづくりワーキングチーム」代表として活動を牽引してきた第2筆者の小川が、町議会議員という要職に就くことになった。さらに「読書と作文のまちづくりに関する実践的研究」の研究代表者である鹿内が、今金町がある北海道から九州に異動した。このような大きな変化があったにも関わらず「読書と作文のまちづくりワーキングチーム」は、知のトラストとしての機能を2015年度も十分に果たしてきた。次章では、まずワーキングチームが中心になって行ってきた2015年度の活動概要を紹介する。

Ⅱ. 2015年度「読書と作文のまちづくり」活動の概要

今金町教育委員会社会教育主事 白岩政浩（執筆）

■図書ポイント制度「としょぼ」

2014年度10月よりモデル的に導入した制度である。「としょぼ」を導入した2014年の図書室利用状況については貸出し冊数が前年度に比べ「2500冊の増」、利用人数は「1513名の増」と過去5年と比較しても一番多い。これは「としょぼ」の導入、「読書と作文のまち」の取り組みのたくさんの小さな積み上げの成果であると捉えている。

2015年度については多くの町民が楽しく本にふれることを願い継続し、モデル実施から本格実施として運用している。2015年12月現在で150冊以上借りている利用者も複数名いる現状である。

◇2014年10月～ モデル実施

◇2015年4月～ 本格実施

■男の読み聞かせ団体「パイルドライバー」結成・披露

これまで、読み聞かせ団体といえば女性を中心となり組織され、学校・地域など様々なフィールドで活躍している。しかし、今金町では以前から「男の読み聞かせ」を行いたいという声があがっており、学校の先生、地域の子育て層を中心に結成された。

お披露目は「春らんまん花いっぱい2015」という今金町商工会女性部が中心となり主催しているイベントとなった。商工会女性部より「読書と作文のまちの取り組み推進の一環としてステージ発表しませんか？」と声をかけて頂いたこともきっかけとなった。「男の読み聞かせ」は、まちづくり・地域づくりとしての「読書と作文のまち」の取り組みであり、今後の大きな可能性を感じた。

この読み聞かせ団体にへき地校「種川小学校」の安田校長先生も加入している。地域のイベントに読み手として協力してくれる校長先生がいることも、これまでの学校・家庭・地域・行政を結ぶ読書と作文のまちづくり活動の成果であると感じている。

◇読み聞かせ団体「パイルドライバー」 ※読んだ絵本のタイトルから命名された。

◇メンバー 安田彰浩（種川小学校長）、田名部圭一（今金小学校教諭）、野呂篤志（子育て層）

◇発表機会 春らんまん2015（5月17日）、第12回いまかね図書まつり（10月25日）



写真1 男の読み聞かせその1



写真2 男の読み聞かせその2

■大人のためのお話し会 「地域編（テーマ 平和）」・「行政編（テーマ 命）」

昨年度から始めた来場対象を大人とした「大人のためのお話し会」。今年は地域の方々が読み手となる「地域編」の読み聞かせと、初めての取り組みで行政職員が読み手となる「行政編」の読み聞かせが開催された。

地域編の平和をテーマとした読み聞かせは戦後70年として8月5日に開催された。地域から選出されているワーキングメンバー以外には地域のコンクリート会社の専務取締役などの読み手もあり、読み聞かせをとおして戦争の悲劇など伝えた。

行政編では平和とのつながりから「命」を読み聞かせテーマとし、8月19日に行政職員で読み聞かせを行った。教育委員会だけではなく「総務財政課・まちづくり推進課」の他部局の職員にも協力を頂いた。メンバーには課長職もあり、若手から課長職までが知恵を出し合った良い読み聞かせが出来たと感じている。当日は40名を越える多くの来場が

あり、大人のためのお話し会では一番多い来場者数となった。

◇地域編メンバー 坂本孝子（ワーキングチームメンバー・らびど文庫店主）

織田順子（主婦）

藤田幸司（今金コンクリート専務取締役）

◇地域編実施日等 2015年8月5日 参加者10数名

◇行政編メンバー 森 朋彦（今金町役場総務財政課 課長）

廣嶋絵理子（今金町役場まちづくり推進課 係長）

白岩 政浩（今金町教育委員会 社会教育主事）

木村 堯史（今金町教育委員会 社会教育主事）

小山内健太（今金町教育委員会 特別支援教育支援員）

船木 恵（今金町教育委員会 司書）

◇行政編実施日等 2015年8月19日 参加者40数名



写真3 大人のためのお話し会 地域編



写真4 大人のためのお話し会 行政編

■デジタルカメラで写真絵本づくり・世界に一冊だけの本展出版

今金小学校PTA子育て集会として行われてきたのが写真絵本づくりである。今年3年目を迎え、今金小学校PTA研修部・今金町読書と作文のまちワーキングチームの連携事業として企画した。小学校の児童とその保護者を対象としていた従来の取り組みを発展させ、町民にも広く呼びかけ事業を実施した。幼児から高齢者までの参加があり、講師の写真家・絵本作家の芽室町在中「小寺卓矢氏」から親切丁寧な指導を頂いた。この活動から創造力溢れ個性豊かな作品がたくさん生まれた。お互いの作品を読み合い、様々な考え方にふれ、まさに読書（インプット）と作文（アウトプット）の両面が育まれる事業となった。

さらには函館市で開催された「第10回世界に一冊だけの本展」に出展し、来場して下さった方々より紙面で様々なコメントや評価を頂いた。その評価を制作した参加者にフィードバックした。ヤル気や励みになって欲しいと願い、コメント一覧を添付して作品を返却し

た。今金町外の方々から「評価やコメント」を頂くという新たな機会をもてたことは、今金町の取り組みをこれからも自信を持って進めていくための一つのきっかけになったと感じている。

◇デジタルカメラで写真絵本づくり 2015年10月24日開催 35名参加

◇世界に1冊だけの本展へ出展 2015年11月19日～26日 函館市



写真5 写真絵本づくりその1



写真6 写真絵本づくりその2



写真7 世界に一冊の本展その1



写真8 世界に一冊の本展その2

■読書と作文のまちワーキングチームによる学校現場以外での看図作文指導の実践

今年度、看図作文・看図アプローチの地域における広がりを推進することが会議で検討された。看図作文はこれまで「国語サークル」や「田名部先生・原田先生」など、教員が地域で指導してきた。しかしワーキングチームメンバーも指導できるようにしていかなければならないとワーキングチーム会議で協議され、看図作文研修会などを経て今後推進していくことが必要であると方向性を定めた。

初めての取り組みとして「第12回いまかね図書まつり」のステージ発表の時間を頂き、約50名を対象に教育委員会社会教育主事白岩がモデル的に実践を行った。看図を体験した来場者のアンケートからは今後の看図作文に期待するコメントなどが寄せられた。

◇第12回いまかね図書まつりでの実践 2015年10月25日 対象者 約50名

◇実践者 今金町教育委員会 社会教育主事 白岩政浩

◇使用した絵図 「マイマイ」(鹿内2010, p.58参照)



写真9 図書まつり看図体験その1



写真10 図書まつり看図体験その2

■読書と作文のまちワーキングチーム「看図作文研修会」

前項で記述した「ワーキングチーム委員自らが看図作文を指導できるよう」にワーキングチームを中心に田名部教諭を講師として研修を実施。ワーキングチームには「認定こども園いまかね」の幼児教育部門からも委員を選出している。その委員から「認定こども園いまかねの職員研修で実施したいと考えており、子ども園の研修部もワーキングの看図研修会に参加させて頂きたい」と依頼があり、ワーキング委員・こども園研修部の合同での研修会とした。

田名部教諭より進め方など丁寧に指導を頂き、発問方法なども考えながら進められた。この研修会の最後には、こども園での実践の詳細も協議され、12月16日にこども園で職員研修として看図体験を実施することが決定した。

◇看図作文研修会 2015年11月26日 10名参加

◇研修会講師 今金小学校 教諭 田名部圭一氏



写真11 看図作文研修会その1



写真12 看図作文研修会その2

■幼児教育施設「認定こども園いまかね職員研修」看図作文研修会

幼児教育施設職員を対象とした初めての研修会。田名部教諭に講師を依頼し、50分間と限られた時間での研修会となった。こども園の職員26名が出席した。女性を中心とした職場でもあり、保育士は皆エネルギーで大変反応もよく、これまでにない盛り上がりの研修会であったと感じた。完成したお互いの作文にふれ、たくさんの考え方があることにも感動した様子であった。

看図作文体験終了後には研修部・園長先生からも「ステップを踏みながらいつかは子どもたちに簡単な方法でも実践できたら良いと思いました」とご意見を頂いた。

認定こども園の幼児は絵本や紙芝居が大好きな子どもたちである。絵を見て楽しむことや絵から何かを感じる事が好きな子どもたちなので、今後の幼児教育分野での広がり期待と可能性を感じた。

また、看図作文研修会終了後、引き続き職員会議を行った。その中でも「看図が凄く楽しかった」「なにか実践につなげていければ」と前向きな意見が出されたと聞いている。

◇こども園看図作文研修会 2015年12月16日 参加者26名

◇研修会講師 今金小学校 教諭 田名部圭一氏



写真13 こども園看図作文研修会その1



写真14 こども園看図作文研修会その2

なお、「読書と作文のまちづくり」ワーキングチーム年間活動計画を表1にまとめておく。

表1 2015年度「読書と作文のまち」ワーキングチーム年間活動計画

事業内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議 (各部会別協議もあり)			第1回 11日	第2回 2日								
通年で会議を開催していく。各種部会別協議も必要に応じて開催。												
学校 授業 環境の 整備・充	★看图作文の手引きの活用 (年間を通して教科書や指導計画との関連を図りながら可能な範囲で看图作文の取り組みを実践)											
学校図書 環境の充	★司書との連携(毎週火曜派遣【中学校】)★図書巡回システム運用★図書室・学校図書室の環境整備											
読書と作文のまち 学校	町内先生方一人ひとりに理解して頂けるよう組織し、学校での「読書と作文」の取り組みの充実を図っていきたい。											
研 修 事 業	★「親子写真絵本づくりワークショップ」の継続(10月24日)											
PTA 会 議 関 係	各学校PTA会議等での情報提供や協力依頼、PTA活動支援のためにも連携し、進めたい											
地 域 実 施 事 業 関 係	★としよぼ 4月～	★男の読み 聞かせ 17日	日ハムおす ずめ絵本展 17～28日	日ハムおす ずめ絵本展 17～28日	★大人のためのお話会 5日・19日	いまかね 図書まつり 29日						
社 会 教 育 団 体 等	読み聞かせボランティアによる各々での実践活動や、各々教育団体等の読書と作文の実践や参画											
実 践 事 業	動く公民館 17日		日ハムおす ずめ絵本展 17～28日	日ハムおす ずめ絵本展 17～28日	★夜間開室 ・お話し会(毎月第3土曜) ・特別展開催・情報発信							
図 書 室	・通年を通して図書館車プックンの運行(閉校地区含む)											
通 年 事 業	★今金ふるさと塾★土曜日の活動推進プランの連携・プックスタート・本のふれあい便(八雲町連携)											
活 動 支 援	年間を通して、家庭・学校・地域で行われる実践活動を支援(人的・備品・実施予算の相談 等)											
環 境 整 備	総合体育館をはじめ、利用者の多い施設や地域の図書環境整備を実施する。(ひだまり、病院、各温泉、地域集会所 等)											
読書と作文の取組みに 関連する研修機会の提供	看圖書文 研修会 26日											
取 組 みの 発 信 ・ P R 等	HPIによる発信・図書日より・図書室情報発信ブース・各学校文化祭及び総合文化祭等での啓発(全小中学校・新規で養護学校)											
	看圖書文 研修会 26日											
	ことし 研修 16日											
「地域での広がりに」に重点をおき、「看图作文出前講座」など地域に向いて実践していく。(2015.3月会議方針) ★＝重点事業												

Ⅲ. ワーキングチームメンバーからの寄稿

本章では「今金町読書と作文のまちづくり」活動の「これまで」をふりかえり、かつ「これから」を展望していく。そのための資料とするため、「読書と作文のまちづくり」活動に携わってきた2名に寄稿を依頼した。「読書と作文のまちづくり」活動のひとつひとつの積み重ねが図書館建設構想につながってきた。そのこともふたりの寄稿文から伝わってくる。さらに、これからできる図書館を拠点として「読書と作文のまちづくり」活動の新たな展開が目指されている。ふたりの寄稿文は、ともに「信じています」という言葉で結ばれている。「読書と作文のまちづくり」という全国でも例を見ない、文化と教育の創造が今金町民の強い信念のもとに行われている。「読書と作文のまちづくり」活動の今後の発展が期待されるふたりの寄稿文を以下に載せておく。

司書としてであった読書と作文のまちづくり

今金町教育委員会司書 船木恵

2001年12月に「こども読書活動の推進に関する法律」が施行され、北海道でもブックスタート事業が奨励されるようになりました。これを受けて2003年4月に今金町での文化的まちづくりの将来を見据えて、教育委員会に司書が配置されました。

さらに、図書環境の構築を図るため学校・家庭・地域・行政で構成する「今金町図書振興会議」が設置され、地域全体を取り巻く図書基盤がつくられました。この会議を中心に子どもたちの豊かな成長を願い「今金町子ども読書活動推進計画」が作成され、それまで個々の立場で「本」に親しむ場を提供していた大人の役割が明示されました。

このように「人」と「本」の関係が環境的に構築されつつある中、私たちは鹿内信善教授による「読書と作文のまち構想」に出会うことになりました。司書という立場にとって、この構想は社会教育を礎としての図書環境の拡がりとともに「人と本を結ぶ」本来の仕事に安心という土壌で取り組むことのできる心強い提案でもありました。

「本を読む」という行為は口承文化という目には見えない「本」も含め、読書の先により良い時間が読者の中に育つことなのかもしれません。本の文化が、そして言葉の文化が支えるものは「伝える」という意味でも人と人のつながりや時代を結ぶ大切なメディアでもあります。

「読書と作文のまち」に連動した実践は司書という仕事を預かる者として、とても意義のある事だと考えています。この構想をバックグラウンドとして、“いまかね図

書まつり”“おはなし会”“地域でのボランティア活動”“学校図書館との連携”“看图作文講習会”などを行ってきました。それによって今金町の人々の心のつながりは豊かなものになっています。

また、その一つひとつの小さな実践の積み重ねの成果が今金町での図書館建設に結び付きました。この施設をどのように使っていくかという課題もありますが、暮しの豊かさや生きる力を支え、子どもも大人もことばでつまづくことのない明るい未来を司書という立場から関われることに喜びを感じています。

あらためて「読書と作文のまち構想」の持つ意味の大切さが今金町という場所でさまざまな色で花開くことと信じています。

議員の立場から読書と作文のまちづくりのこれからを考える

読書と作文のまちづくりワーキングチーム代表

今金町町議会議員 小川ひとみ

「まちづくり」という課題

私は、今まで「読書と作文のまちづくり」ワーキングチームの一員として活動してきました。の中で感じていたことは、この取り組みに終わりはないということです。一つ一つの活動を継続して、多くの人の理解を得ること、楽しさを共有することによって、根付いていくものだという事です。

しかし、ワーキングチームの活動を続けていくことはもちろんですが、ワーキングチームの活動だけでは、手に負えないものがあると感じ始めました。それが、「まちづくり」ということです。「まちづくり」までにもっていくには、ワーキングチームだけでは、限界があります。そこで今の自分の立場から、どう考えていくべきかと思っていたところに、このテーマをいただきました。ですから、答を探しながらの原稿のなってしまうことを、お許しください。

「読書と作文のまちづくり」と漠然と考えると、とても夢のある楽しいものですが、いざ具体的に、議員の立場で考えようとすると、難しい問題です。読書に関する基盤はあるものの、その上に何を積み上げていったらいいのでしょうか。

活動をつなげ広げる

まず、現状から考えてみます。幸運にも、今金町では、図書館の建設が決まり、今、まさに、動いている最中です。そこでは、いろいろな人が、今金町の図書館のあるべ

き姿を模索しています。町民の目と耳が、図書館にむいている、この機を逃さず、図書館を核に、まちづくりを考えていきたいと思います。ワーキングチームの活躍の場でもあると思います。町民にとって必要な図書館になれば、そこからいろいろなものが生まれてくると思います。まちづくりは、与えるものではなく、生まれてくるものです。私の立場は、それを支え、つなげていくことだと思っています。

そして次に、どう広げていくかです。図書館建設で行政のいろいろな課が、関わってくるので、その人達が、各々の部署でどのような位置付をしていくかを考えることです。そこでの提案もしていければいいのかなと思います。また、町民にも、自治会をはじめ各種団体へのアプローチも必要になってくると思います。これは、今年度のワーキングチームの活動にも計画されています。具体的には、こども園の職員研修で、看图作文をやります。先生の中では、こども園のこどもたちへの看图作文も、視野に入れてのお話で、期待するところが大きいです。今、たくさんの点を打ち、図書館の完成によって、点がつながっていくことを願って、活動を続けていきたいと思っています。

「まちづくり」につながるエピソード

最後に、エピソードをご紹介します。これからの展望がみえてくればいいのかなと思います。今金町の二つの小学校で、社会科見学として、豆腐の製造見学をしています。その見学の前に、事前授業として、絵本を使っています。それは、先生方の申し送りかわかりませんが、毎年おこなわれています。絵本の存在がその授業のなかには、根付いています。また、読み聞かせの依頼も、老人クラブ女性部からいただき、60人近くの方に楽しんでもらいました。依頼がくることは、認識してもらっていることですし、なにより、楽しんでもらえたことが重要だと思います。こういうことが、どんどん増えていくことが必ずまちづくりにつながります。

町民参加を促す議員の活動

議会では図書館・体育館建設にむけて、特別委員会が設置されました。これからそれをテーマに町民会議も開催されることも決定しました。建設費の問題が大きいかと思いますが、図書館の役割もきちんと訴えていきたいと思っています。多くの町民の声を聞けることも、楽しみにしています。

これからの議員としての活動の中で、芽を見つけ、育て、多くの人と共感することに努力していきたいと思っています。ワーキングチームだけでなく、広い視野に立って活動できればと思っています。町民が参加できるまちづくりとしては、一番やさしいも

のなのかと思っています。

今金町の「読書と作文のまちづくり」の未来は、明るいと信じています。

IV. まとめ

本報の内容のほとんどを今金町の方々に執筆してもらった。原稿を執筆することも「読書と作文のまちづくり」の「作文」活動のひとつとして位置づけている。科学研究費を受けての活動は、今年度で一区切りとなるが「読書と作文のまちづくり」活動は今後も継続していくことになる。2016年度以降の発展経過も今金町民が書く文章（作文）で発信していけるよう、論文発表機会の確保に努めたい。

また、論文としての発表に値する活動内容になるよう、鹿内をはじめとする研究者グループの今金町に対する直接的・間接的支援も継続していきたい。今金町前教育長中島光弘の寄稿文によって本稿を締め括りたい。それにより、これまでの活動実績と町民のエネルギーを今金町の未来へつなげていく。

「読書と作文のまち」施策が創造的まちづくりにつながる

今金町副町長（前教育長） 中島光弘

子どもたちの健やかな成長とたくましく生きぬくための施策は、学校・家庭・地域・行政の共通の願いである。しかし、一方では具体的な推進が課題となっている。

今金町は、北海道教育大学の鹿内信善教授（現在、福岡女学院大学教授）との連携の中からその道標となる「読書と作文のまち」構想と出会うこととなった。鹿内教授が進めている「看图作文」は実に興味深く大人も子どもも感性を揺さぶられるもので、我が町が進めていた子ども読書推進計画や図書振興計画等とのマッチングは絶妙であり、2012年からスタートすることとなった。

この施策の最大のメリットは、学校・家庭・地域・行政のそれぞれの役割と取り組みが明確なことにより町全体で取り組む体制が同時に形成されたことである。

また、小さな町でも大学と連携することにより、人材の確保や大学体験などのプログラムも生まれた。行政的にも、これらのノウハウがベースとなり、現在、北海道教育大学、北翔大学、北星学園大学、札幌国際大学、東洋大学（埼玉県）との連携が行政の各分野で推進されている。都市部の大学と地方自治体の連携は双方に利点がある。

大学側にとっては小規模な町をフィールドにすることで研究成果を出しやすい上、地域貢献としての側面もある。自治体側にとっては外部から地域振興のアイデアを得たり、町の魅力を発信したりする可能性が広がる。

更に、大学との連携事業には、その先にも大きな可能性を含んでいる。今金町に愛着を抱いた学生を地域おこし協力隊や特別支援教育支援員、町職員として登用し、その後産業の担い手となることも期待される。

教育長時代の読書と作文のまち施策を通じて培ったことの一つに、連携の基本は、「自治体側のスピーディーな対応と的確な判断」がある。現在、副町長として職員の意識改革とともに各施策の推進にあたっている。

今金町は、現在、読書と作文まちの拠点となる住民待望の図書館建設が具体化している。2019年、「今金町総合体育館と今金町図書館」の完成を目指して、住民と行政が一体となったプロジェクトが進行している。

読書と作文のまち施策が、今後も創造的まちづくりにつながっていくことを確信している。

参考文献

- 伊藤公紀・小川ひとみ・坂本孝子・鷺野咲恵・田名部圭一・鹿内信善 2015 『今金町「読書と作文のまちづくり」活動報告』 札幌大学総合論叢 第39号, pp.105-125
- 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領－「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン－』 溪水社
- 渡辺豊博 2005 『清流の街がよみがえった 地域力を結集－グラウンドワーク三島の挑戦』 中央法規

注1：本研究の研究費の一部に日本学術振興会科学研究費（挑戦的萌芽研究）「読書と作文のまちづくりに関する実践的研究」（研究代表者：鹿内信善，課題番号 25590253）をあてた。

注2：本稿の構成は鹿内が行った。本稿の文責は鹿内を負うものである。中島光弘・小川ひとみ・船木恵・白岩政浩の執筆箇所は本文中に明記した。伊藤公紀は科学研究費の研究分担者である。研究計画調査には伊藤の役割として「活動のアーカイビング」をあげてある。本稿は、活動アーカイビングのひとつとしてまとめたものである。

注3：本稿では「読書と作文のまちづくり」活動に携わった方々の氏名を掲載している。氏名等を掲載することについて、それぞれの方からの了承を得ている。

注4：掲載写真中に児童や保護者が写っている場合はモザイク処理を行った。